

COPD に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. COPD は慢性気管支炎や気管支喘息，肺気腫の総称で，有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。
2. COPD の特徴的な症状は，歩行時や階段昇降時に息切れを感じる労作時呼吸困難や慢性の咳や痰である。
3. 肺胞が破壊されて，肺気腫という状態になると，肺が膨らもうとする力が減少して，息を吐くのは容易だが息を吸うことが困難になり，酸素の取り込み機能が低下する。
4. 肺機能検査（スパイロメトリー）で，「1 秒率」が 50 % あれば，COPD の可能性は低い。
5. 喫煙者における COPD の発症率はおよそ 50 % である。COPD 患者が禁煙すると，「1 秒量」が改善する。

感染症法第6条は感染症の分類について規定している。これに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 一類感染症は、感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性が極めて高い感染症で、後天性免疫不全症候群、エボラ出血熱、急性灰白髄炎がその例である。
2. 二類感染症は、一般に国民が免疫を獲得していないことから、全国かつ急速な流行により国民の生命及び健康に重大な影響を与えられとされる感染症で、新型インフルエンザがその例である。
3. 三類感染症は、感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症で、コレラ、腸チフスがその例である。
4. 四類感染症は、生きている動物を介してヒトに感染する感染症と定義されており、狂犬病、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）がその例である。
5. 五類感染症は、感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性が低い感染症であり、A型肝炎、E型肝炎、RSウイルス感染症がその例である。